



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 42 号

2007.7.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。

一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」の名前をつかっています。

も く じ

おしらせ

一 高原の自然史 第 12 号を発行

活動報告

- 一 畳山の植物観察会
- 一 龍頭山の野鳥観察会
- 一 霧ヶ谷湿原の植物と昆虫観察会
- 一 霧ヶ谷湿原実験地の植生調査

観察会案内

- 一 八幡湿原の植物と昆虫観察会
- 一 千町原草原の保全活動
- 一 千代田のオオサンショウウオと水辺の生き物観察会
- 一 龍頭山の昆虫観察会

お し ら せ

● 観察会の日程変更について

8 月に予定していた「千代田のオオサンショウウオと水辺の生き物観察会」および「世界最南限のカワシンジュガイ観察会」の日程が変更になりましたので、観察会案内の項でご確認ください。

● テレビ宣言への出演について

広島テレビで、毎週月曜日から金曜日の 16:48～19:00 に放送されている生放送番組『テレビ宣言』の「テレ宣情報ネットワーク」の特派員として、柳崎が地域の情報を発信していくことになりました。これから、季節事に様々なお知らせをお伝えしていく予定です。最初の放送は、7 月 6 日（金）の予定です。どうぞご覧下さい。

● 高原の自然史 第 12 号 目次の訂正について

前号でお知らせした、「高原の自然史 第 12 号」の目次に、次の文献が抜けていましたので、お詫びして訂正いたします。失礼いたしました。

広島県臥龍山麓の維管束植物

吉野由紀夫・白川勝信・小宮啓吾

今後の観察会予定

- | | | | |
|-----------|-------------------------|-----------|-----------------------|
| 7 月 8 日 | 八幡湿原の植物と昆虫観察会 | 21 日 | 寒曳山の植物観察会 |
| 29 日 | 千町原草原の保全活動 | 11 月 11 日 | 紅葉の山でゴギの産卵観察会 |
| 8 月 11 日 | 千代田のオオサンショウウオと水辺の生き物観察会 | 23 日 | 千町原草原の保全活動 |
| 11 日 | 龍頭山の昆虫観察会 | 12 月 2 日 | 八幡高原の冬鳥&越冬する樹木の姿 |
| 12 日 | 世界最南限のカワシンジュガイ観察会 | 9 日 | 冬の工作「小鳥を呼ぼう、かんじきで歩こう」 |
| 9 月 8 日 | 雲月山の植物観察会 | 1 月 20 日 | アニマルトラッキング |
| 17 日 | 霧ヶ谷湿原の植生調査 | 2 月 17 日 | スノートレッキング |
| 10 月 20 日 | キノコの観察会 | 3 月 9 日 | スノートレッキング |

観 察 会 報 告

● 畳山の植物観察会

開催日時：2007 年 6 月 3 日（日）9:30

講師：斎藤隆登

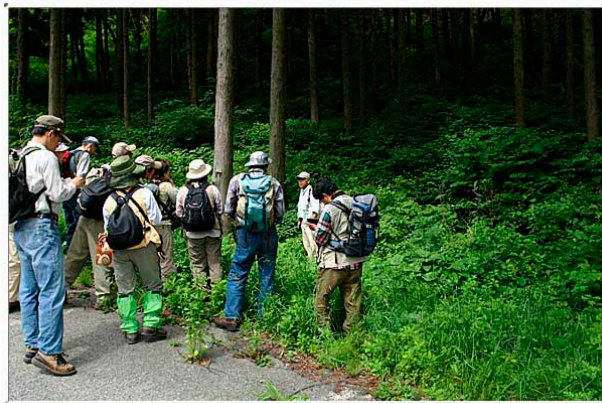
思いがけず、好天に恵まれ、21 名の参加で始まりました。今回は北広島町の自然学術調査のメンバーも加わり、それぞれの得意分野をおおいに発揮していただいて、参加者は大変勉強になりました。

瑞穂スキー場の畳コースからの登山では、駐車場横の草むら・植林の中などでオオアワガエリ・ホウチャクソウ・オオナルコユリ・フタリシズカ・ヤグルマソウ・ヒメシラスゲ・オクノカンスゲ等々が見つかり、なかなか進まないのので、「先が長いので急ぎましょう」と声がかかったりもしました。トラツグミやツツドリの声も聞こえました。傾斜がかなり急で少し遅れると先生の話聞き逃し、「今のは何？」と他の人に尋ねたり、写真も撮りたいし、聞いたこともないような植物の名前の書取などかなり忙しく、改めて名もない草花などないことを実感しました。サンヨウブシ（数少ない無毒のトリカブト）の群落もあり、オヒョウというアイヌの人が織物に使った木や、コバンノキ・ミヤマハハソなども見られました。トチノキやハクウンボク・オオバアサガラなど今まさに花の時期のものもありました。ゲレンデの中にはコナスビやミミナグサ・ジシバリなど田んぼの畦に見られるような、草刈りのしてある湿った所を好むような植物もたくさん見られました。

一応三角点まで行こうということで、しばし藪こぎをして、背丈ほどもありそうなササの中を前進、少し、雨がぱらつきましたが、無事お昼ご飯となりました。みんなで集合記念写真を撮り、午後は調査と帰路に着く人に分かれしました。帰りに駐車場ゲート付近でアカショウビンの声も聞こえました。山岳会の強者もいましたがハードな山道で翌日皆さんどうだったのかな？と心配された観察会でした。〔や〕



スキー場の建物周辺でオオタカの羽 その他鳥の羽多数。



駐車場横の植林地境での植生。



急斜面のゲレンデを登る。



先生の説明を真剣に聞く。



頑張って藪こぎして畳山三角点に登頂しました。

【みなさんの印象に残った物（抜粋）】

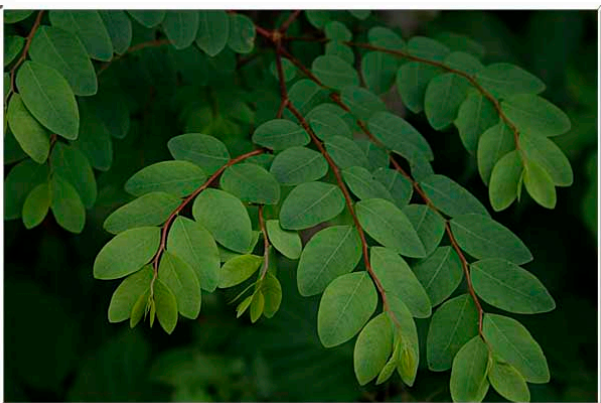
「スゲの花が咲いていて勉強になりました。親切に教えて頂きました。」「ハンショウヅルの花がきれいでした。スキー場の上からの眺めが気持ちよかったです。(2)」「やぶこぎ」「夏の阿佐山を見たこと」「スキー場の直登」「開放感のあるスキーのゲレンデといろいろな花」「今日は熱心に観察しメモした。」「想像したより多くの植物があった。」「畳山山頂に登れたこと」「どんな植物もしっかりみてあげたこと。」「サンヨウブシトとトラツグミ」「植物の多さ」「スキー場にアカモノがあったこと。」「皆さん和やかな雰囲気楽しかった。」



藪こぎ終了。やれやれ。

【参加したみなさんの感想】

「スキー場からの登山と聞き、植物はどうかと思いましたが、結構植物が豊富で見応えがありました。」「いい風でした。」「野鳥、植物、ハンショウウオ、シダと各方面にわたり勉強できました。」「なごやかに行動されたこと」「とても勉強になりました。」「植物・鳥類・両生類と内容の濃い観察会でした。」「キャンプ場で夜々に良く聞くトラツグミの鳴き声があった。」「いつも撮れないので良かった。」「天気予報は雨だったが降らずによかった。先生が多く参加されていて良かった。」「スキー場を登るのは少々疲れたが、多くの珍しい植物を見られ、広島県側とはまた違った植物を見ることができた。」「楽しい一日。山の中で（植物に）元気をもらいました。」「草花も鳥も教えて頂いて楽しかった。」「とても楽しい。次回も参加したいと思います。」「普段見られないものが見られておもしろかったです。」



コバンノキ。

観 察 会 報 告

● 龍頭山の野鳥観察会

開催日時：2007 年 6 月 10 日（日）6:00

講師：上野吉雄

今回が初めてとなる龍頭山野鳥観察会ですが、18名の参加者が集まりました。どんぐり村の駐車場に集合し、目的地である龍頭山へと移動しました、最初の駐車場ではゴジュウカラの鳴き声が賑やかに迎えてくれました、しばらくするとピー、ピーという特長のある鳴き声が耳に入りました。この鳴き声の正体はトラツグミで、夜によく鳴くことから、昔の人は架空の動物「ヌエ」の声だと思い恐ろしがっていたそうです。今回の観察会では姿こそ見れませんが、鳴き声を良く聞くことができたので、印象に残った方も多いようでした。またイカルの姿と鳴き声も確認できました。イカルは別名マメマワシといって、種子食であり、固い種子を食べるために強くちばしと強い筋肉を持っている、というお話も聞きました。長い間、姿と鳴き声を披露してくれたのはホオジロです。メスを呼ぶためにオスは高い木の枝などにとまってさえずります。この鳴き声を「ゲンペイツツジ、シロツツジ」や「一筆啓上仕り候」と表すそうです。そう思って聞いていると、そう聞こえるような……。カラ類の特長としては、体が小さな鳥は高音で早くさえずり、大きくなるほど低音でゆっくりと鳴くそうです。実際にコガラはツッピーツッピーと甲高く忙しげにさえずっていました。一方ヤマガラは同じようにツッピーと聞こえてもややゆっくりと、そして低くさえずっていました。他にはものまねをして鳴くクロツグミ、コロコロコロと鳴くカワラヒワ、ギーギーと鳴くコゲラ・・・とたくさんの種類の鳥を見たり、鳴き声を聞いたりすることができました。頂上付近にあるブナ林ではエナガ・コガラ・ゴジュウカラの混群を見ることもでき、短い時間で手軽に観察できる龍頭山を満喫することができました。鳥以外にも昆虫や植物、ヘビなど多岐に渡りじっくりお話を聞き、また触れることのできた内容の濃い観察会となりました。[こ]



朝 6 時に集合。車で駐車場にあがる途中もぎやかに鳥たちのさえずりが聞こえた。



鳴き声はするものの、なかなか姿が見つからない。そんな時は先生のフィールドスコープを見させてもらう。



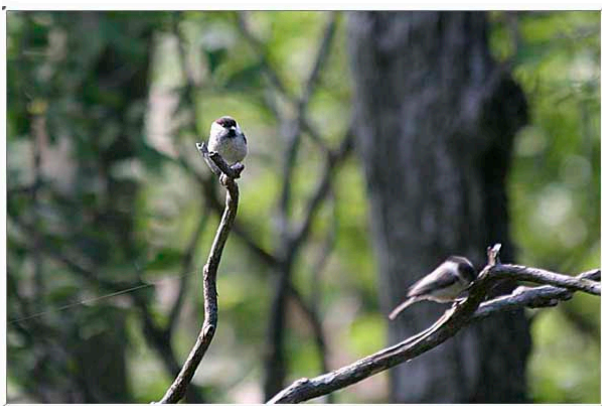
今回の龍頭山のコースは歩きやすかったのも、ゆっくりのんびりと鳥の姿や声を探しながら歩くことができた。



頂上に到着。この日は晴れ渡り宮島の方まで見ることができた。



長い間姿と声を披露してくれたホオジロ。



仲良く戯れていたコガラ。この日はカラ類の鳴き声が良く聞こえた。



昆虫類・クモ類・草木の種子を採食する。その時に逆さになって木の幹を回るように歩く。

【みなさんの印象に残った物】

「鳥が虫をくわえていたところ。」「鳴き声と鳥の特長を知れてよかった。天気も暑からず寒からずで良かったです。」「ホオジロがかわいかったです。」「鳴き声をいろいろ教えてくださいまして感謝しました。」「この前は鳥の姿を追いかけるのがいっぱいいっぱいでしたが、枝の先に止まっている姿をじっくり見れたのが良かったです。」「ヤマカガシ（2）」「トラツグミの声」「いつも聞いている鳥の声の種類がわかった。」「龍頭山頂からの眺めの良さ」

【参加したみなさんの感想】

「また来たいです。」「鳥だけでなく、ヘビや虫や木などもいろいろ見られて良かったです。」「楽しかったです。」「参加人数もちょうどのようで、説明がよく聞けて良かった。」「頂上は見晴らしが良くて、気持ちよかったです。」「初めての参加でしたが、とても勉強になりました。」「時間もちょうど良く、山も歩いて鳥も花もヘビも見られて良かったです。」「とても楽しく勉強になりました。」「まだまだ聞いてみたい小鳥を見ていきたいと思います。」「龍頭山には始めてきました。見慣れない植物もあったし、鳥の説明も良く聞けて良かったです。」

観 察 会 報 告

● 霧ヶ谷湿原の植物と昆虫観察会

開催日時：2007 年 6 月 23 日（土）9:30

講師：和田秀次、岩見潤治、白川勝信

前日の大雨がウソのようにすっきり晴れ渡り、子どもたちの参加も多く、賑やかにはじまりました。まず、ルート説明・湿原再生事業について簡単な説明があり、講師の自己紹介の後、水口谷湿原の木道へと進みました。野外の観察会での注意点として「ハチ」「毒ヘビ」「かぶれの木」の三点を気をつけつように言われました。そして、カモガヤ・オニウシノケグサ・ハルガヤの牧草を教えてもらい、ここで「毒ヘビ」ヤマカガシの登場です。捕獲され、首筋を押さえての安全体制での説明。排泄口の説明・ウロコの事・口の中の構造等々。こんな機会はめったにないからと、触ったりもしました。体温・肌触りなどなかなか興味深かったです。そして、ハルゼミの声「モゲ〜モゲ〜」と鳴く声に耳を傾け、アカマツ・クロマツの樹液を吸うこと、市内では5月の連休頃から鳴き始め、芸北では7月の上旬まで聞くことができるそうです。ミヤコイバラが良い香りを放っていました。毒を持つカバキコマチグモの巣の解体など今日は怖い体験もいろいろです。湿原にはオレンジ色の羽をしたカワトンボの♂がたくさんいました。ナキイナゴの大合唱と音の出し方は、確かに後ろ足と羽をこすって音を出していました。ハンノキ林ではハンカイソウがわずかに開き掛けていました。ヒロシマサナエはカワトンボより少し明るいところを好み、すでに♀の姿が多く、産卵に来ているようです。スイカズラも咲き、今度はエゾハルゼミの「ミョギーミュギーケツケツケツケツケ」と鳴き声。落葉広葉樹の樹液を吸うので、ここでしか聞けないそうです。オオヘリカメムシが良いにおいがすると怖々かいでみたり、貴重な体験でした。霧ヶ谷湿原に向かう途中では、ヒメシジミをたくさん見かけました。八幡湿原自然再生事業のパンフレットを見ながら霧ヶ谷湿原の3年間工事後の未来図を想像しながら、今現在をしっかりと目に焼き付け、西中国山地自然史研究会で事前に行っている実験地で植生変化の説明を受けて観察会を終了しました。自然館に帰ってから今日の感想はヤマカガシ・カメムシのにおい・バッタの鳴くところ・クモなど様々でした。[や]



今日の講師の和田先生（植物）と岩見先生（昆虫）



前日の大雨がウソのように、すっきり青空。



カバキコマチグモの生態について詳しく説明を聞く。



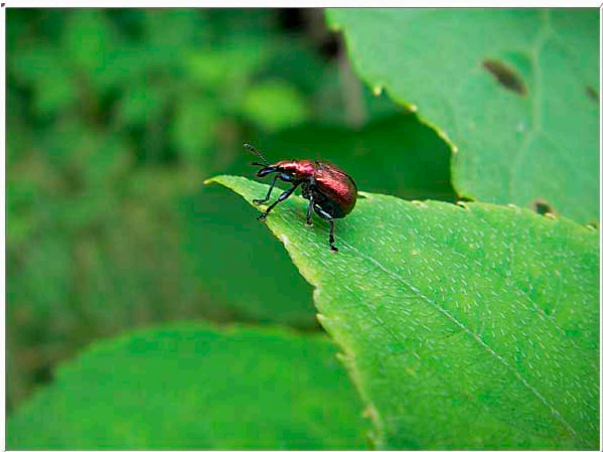
今まさに巣作り途中のカバキコマチグモ。

【みなさんの印象に残った物】

「当地固有のヒロシマサナエに会えてよかった」「やはり植物」「ハルゼミ」「子供達がよくしっていたし、熱心だった」「ヒメクロサナエ」「ヒロシマサナエ、ヒメシジミ、アサギマダラ」「ヤマカガシをさわったこと」「くもの巣作り(繁殖)」「アオアシナガハナムグリが見られた事」「ヤマカガシ、虫」「カバキコマチグモの巣をのぞいたこと」「実験地」「ヘビをさわったこと」「ヤマカガシを身近にみられたこと(2)」「ヤマカガシの説明が楽しかった」「ヤマカガシの観察」「チョウやトンボがたくさんいたことに発見がありました」「いろいろなものを沢山見ました。特にヒメシジミの現物を初めて見ました」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「植物と昆虫両方楽しめた」「とても心に残った、すぐ答えが戻ってきたから」「ゆっくりとよくわかった」「いろいろな植物、生き物が短時間に身近に見られた」「もっと沢山来られたらよい」「大きなめくじがおもしろかった」「お尋ねしたことを丁寧に詳しく教えて頂きました。ありがとうございました。」「とても楽しかったです。(2)」「この湿原にはたくさんの宝物がすんでいるんですね。」「たくさん虫が見られておもしろかった。虫の図鑑を買おうかなと思いました。」「先生方の説明がたくさん聞けてよかったです。植物の緑が色濃くて気持ちよかったです。」「湿原再生が楽しみです。」「色々な虫や植物がみられておもしろかったです」「子供達の虫についてよく知ってておどろきました。」「まさかあんなに近くでウロコを見たのは初めてで、死ぬまで成長するとは！ウロコが重なっていない体とか、ヘビ観察きもちわるいだけではないね、すごい！」「植物ばかり見て来ましたが、はじめて参加してわかりやすい解説でとっても楽しく散策させていただきました。」「大変楽しい観察会でした。」



イタヤハマキチョッキリ。背中が赤、腹が青のメタリックなゾウムシの仲間。飛ぶと派手。



霧ヶ谷湿原の未来について、パンフレットを見ながら説明を受ける。

観 察 会 報 告

● 霧ヶ谷湿原実験地の植生調査

開催日時：2007 年 6 月 24 日（日）9:30

水路を設置してから3回目となる、夏の植生調査です。すっかり調査に慣れた方も、はじめての方も、合わせて16名が揃いました。高原の自然館で八幡湿原自然再生事業のパンフレットを見ながら、事業の内容や実験の意義についての説明をした後、調査地へと向かいました。

調査地では4つの班に分かれて、合わせて14個のプロットを調査しました。調査の指導をしていただいたのは、大竹邦暁さん、小宮啓吾さん、佐久間智子さんで、いずれも植物調査のプロです。各班とも問題なく調査を終えたようでした。今回は、杭の所に長いポールを立てていたので、プロットを見つけやすかったのも良かったようです。

調査が終わった後に感想を聞いてみると、継続的に参加している方からは、植生の変化のことが聞かれました。特に、一度ヒメシロネが増えた場所が、今年はヨモギが増えていたなど、小さな変化があることが挙げられました。また、あるプロットではコバギボウシがしっかりと増えていたそうで、これは嬉しい報告でした。

自然館に戻ってから一応解散とし、午後からは同定をしながら標本を作りました。雨が心配されましたが、1度ぱらついただけで済み、予定通りの調査を終えることができました。



みんなで小さなプロットに見入る。



初参加でも、即戦力。



4班に分かれて、早速調査開始。



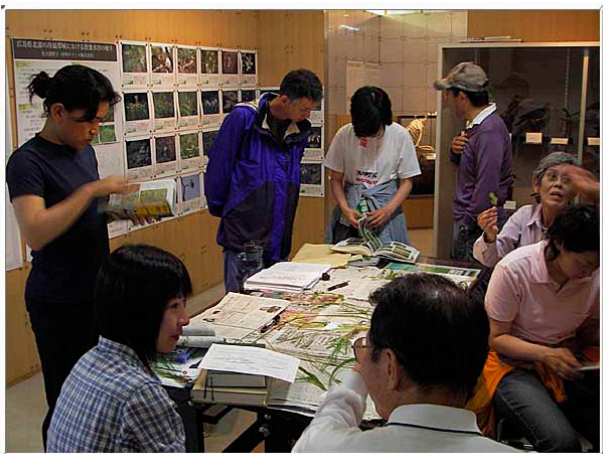
こちらは対照区。ヨモギが多い。



こちらはコバギボウシが叢生した。



調査後に感想を言い合った。



標本づくり&同定会。

【みなさんの印象に残った物】

「植生が思ったより大きく変化していたこと。スギナの減少とキンミズヒキの増加など。」「同じ地域でも1m×1mの中に沢山の植物があるところとそうでないところがある。いつもは全て同じにしか見ていなかった。」「植物の種類の多い事。」「植物種類がとても多く、名を知っておられる事、おどろく。元にもどすため日々努力されている事。」「ミズチドリ」「前回より草木が少し替わっていた、コバギボウシが今回みられたこと。」「水の影響をまざまざと見れた。」「はじめて参加して知らなかったことを知ることができました。」「調査地点により、植生が大きく異なったこと。」「同じ湿地内でも場所によって生えている種が全くちがうのがおもしろい。」「植生調査の概要が少しだけ理解できました。」「コバギボウシ出現！！」「イグサが増えていたこと。」「わからない、けど参加して良かった」

【参加したみなさんの感想】

「来たら来たで楽しめました。」「とても楽しくこれから八幡の地の勉強したいと思う。」「湿地にもどる事、楽しみです。」「植性が少し変わっていた、継続は力で続ける事が大切な事。」「再生事業の追跡チームを沢山つくれないか。」「楽しかったです。みなさんと会話しながらほんとに楽しかったです。」「1m×1mの中に10数種類も植物があるということに発見。この土地が湿地に帰りたいがっているようですね。」「土壌や水分・塩類等の調査をしたいと思いました。」「植物の名前の判定はむずかしい。」「植物に興味を持つ人が増える活動の大切さをあらためて感じました。」「また少し植生が変わっていておもしろかったです。」「班の方たちといろいろ話しながら、調査ができて楽しかったです。」「いろいろな草の名前があって覚えるのが難しいです」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

.....

● 八幡湿原の植物と昆虫観察会

開催日時：2007 年 7 月 8 日（日）9:30

集合場所：高原の自然館

講師：和田秀次、岩見潤治

準備：基本セット、双眼鏡

定員数：30 名

参加費：300 円（ただし、西中国山地自然史研究会会員は 100 円）

夏の八幡湿原で植物と昆虫を観察します。八幡湿原は、西日本の温帯では有数の規模を誇るもので、氷河期の遺存種など、様々な生き物が生活しています。梅雨が明けるこの時期、湿原には沢山の花が咲き、昆虫たちが羽化します。

● 千町原草原の保全活動-草刈り-

開催日時：2007 年 7 月 29 日（日）8:00

集合場所：高原の自然館

準備：作業セット、弁当、水筒

参加費：500 円

草原から森林へと変わりつつある千町原の草原保全作業をします。草刈り機やくま手などをお持ちの方はご持参ください。暑い日なので、帽子や水筒など、しっかりと暑さ対策をしてきてください。朝のうちに作業を終了する予定です。午前中はしっかり働いて、午後は木陰でのんびり、なんていかがですか？

● 千代田のオオサンショウウオと水辺の生き物観察会

開催日時：2007 年 8 月 11 日（土）13:00

集合場所：千代田中央公民館

講師：内藤順一

準備：サンダル・短パンなど水に入れる服装、弁当、箱メガネ

定員数：30 名

参加費：300 円（ただし、西中国山地自然史研究会会員は 100 円）

国の天然記念物であるオオサンショウウオを中心に、千代田の可愛川で水辺に住む生き物を観察します。オオサンショウウオが実際に動くところを見たり、どんなものを食べているかなどオオサンショウウオの生活がよくわかるお話も聞くことができます。お子さんにおすすめの観察会です。

● 龍頭山の昆虫観察会

開催日時：2007 年 8 月 11 日（土）17:00

集合場所：道の駅 豊平どんぐり村

講師：岩見潤治、清水健一

準備：基本セット、弁当、虫除け

定員数：30 名

参加費：300 円（ただし、西中国山地自然史研究会会員は 100 円）

例年は八幡高原周辺で観察していましたが、趣向を変えて、今回は豊平の龍頭山で昆虫を観察します。ライトトラップと、ベイトとラップ、2種類の方法で昆虫を呼び寄せる予定です。子どもも大人も楽しめる観察会ですよ。

八幡青年団が登山道整備の草刈りをしました。このうち、僕たちの班が担当したのは二川キャンプ場の奥から掛頭への登山道と、そこから苅尾への縦走路です。掛頭山の山頂では、アカモノが生えている場所を草刈りして、感慨深いものがありました。地球温暖化や山の過小利用が進めば、アカモノが生き残るのは草刈りがされている法面や遊歩道沿いだけになるかもしれません。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先（ご意見・ご感想もお待ちしております）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info